

What is happiness to you? セントジョセフ高校発表

シンガポールからセントジョセフ高校の生徒6人が来日し、2グループに分かれてプレゼンを行った。

内容は、「グローバル社



熱意を込めてプレゼンを行うヘイデンさん

会での現在と未来の幸福」と「至福への到達」についての2つだった。

6人を代表してインタビューに答えたヘイデンさんは、「今回のプレコンに参加して新しい見方ができるようになった」と語った。

6人は自活のににんばおりとダンス・カラオケにも参加し会場の笑いを誘った。

(桑村 野儀)

今年度のプレゼンテーションコンテストのテーマは「新時代令和を創像する」。例年と大きく変化し、各チームが自由に課題発見を行い、熱い思いを会場で訴えかけた。

新聞部は「新時代の教育

新しい教育を提案する山崎さん



はどうあるべきか？」をテーマにプレゼンした紫苑チームに注目し、責任者の森遼太郎さん(3年4組)にインタビューを行った。

実現可能性を追及

新時代ということで新しい教育についてプレゼンしようと決意。チーム内で、発表は面白くて現実的なものがないと考えたそう。大変だったことは突き詰めすぎて発表時間が長くなりすぎること。いろいろな考えた中で1つにしぼり、現実的かつ具体的な深い内容で攻めました」と真剣に語った。また、アイデアが実現可能であることを証明するための具体

プレコン 実現可能な新教育

紫苑 提言の裏側



紫苑プレコン責任者 森遼太郎さん

的なデータなどの根拠を集めるのに苦労したようだ。

探究活動を活かす

合宿では2グループに分かれ、現実的なアイデアを3年生が、斬新なアイデアを1・2年生が担当して自由に活動した。「2年生は探究活動でキーワードマップを制作しているので積極的に意見を出してくれて上手にいったと思います」と笑顔を見せた。

負の面に目を向ける

講評を行った岡本尚也さんの誰が責任を取るのかと

いう話を聞いて学生の間はモラトリアムが保障されて、あまり責任を感じずに成長することに良い面、悪い面があることが分かったと言った。自分の都合に合わないことなどの負の面も考えなければならぬと感じたそうだ。(小椋)

倉東生なら

もっと出来る

審査委員長の岡本尚也さんは取材に対し「全体のレベルは高い。活気もあるし、先生に挑戦できる企画があることはとてもいいことだと思います。企画を生徒主導で行っているのもすごいことです。でも、倉吉東の皆さんならまだまだ出来ると思います。自分の人生なので自分の納得する探究・研究をしてほしい、自分の納得する人生を歩んでほしいです」と倉東生を激励した。(市橋 小椋)

チーム企画 紅炎「未来遺産」 未来を担う若者をテーマに



紅炎チーム企画リーダー 荒瀧有紀乃さん

紅炎チーム企画「未来遺産」



5mm×5mmのモザイクのピースたちを貼り合わせ完成した1つのアート。紅炎チーム企画責任者の荒瀧有紀乃さん(3年2組)に話を聞いた。

荒瀧さんは「未来遺産」というテーマから私たち1人ひとりが未来遺産であり私たち若者がこれからの社会をつくっていく存在であると考えたそう。

出来栄は何点だったかと聞くと

「点数は分かりませんが、紅炎のみんなが協力してくれて良い作品が作れました」と満足そうに答えた。

最後に完成した時の感想を尋ねると「モザイクアートがとても大変だった分、全部が出来上がったときは本当にうれしかったです。みんなで頑張った良かったなあと思いました」とうれしそうに締めくくった。

(伊藤 津村)

1の3 叩け! 土竜 ~叩きまくれ! GO GO モグラ~

1年3組のクラス企画は「叩け! 土竜」。責任者の田口あみかさんにインタビューを行った。「特に接客に力を入れまし



モグラ叩きを楽しむ久米先生

クラス企画 W優勝 銀河

た。皆で声を出して盛り上げることでお客さんに楽しんでもらえるようにしました。また手動でモグラを動かすことでスタッフも楽しめたので良かったです」と語った。

2の3 千とみ千尋の神隠し ~Let me show その勇士を!~



映像に見入る挑戦者

2年3組のクラス企画は「千と千尋の神隠し」をモチーフにした謎解き脱出ゲーム「千とみ千尋の神隠し」。

責任者の大木蓮太さんにインタビューを行った。

大変だったことを聞くと「外装の段ボールで作った文字が剥がれてきたり、経費の使い方が上手いかなかったです」と振り返った。金庫をくぐる仕掛けを作ることで少年心をくすぐること、お客さんが満足する接客をすることに力を入れたそう。

(高野 正司)